

C—11 食材料費における最近の消費傾向の一考察

安城学園女子短大 稲垣 翠

1. 食材料費は、われわれの消費生活のうちで最基本的な消費部門である。最近の家計消費のなかの食料費の動向をみると、まず食材料費の家計消費支出に占める割合の低下があげられている。すなわち、エンゲル系数は37.9%（39年度）と低下したと報告されているが、ただエンゲル系数が低下したからよいといえるわけではない。とくに最近の値上がりは、支出抑制が困難なものが目立っていることを考えると、エンゲル系数の低下そのもののなかに、物価上昇のなかで生じた家計の無理が現われているのではなからうか。

2. こうした観点より、われわれは、愛知県豊田市における栄養調査および食材料費の調査を行ない、食材料費への支出配分、価格と消費量の関係などより、最近の食生活の構造変化の特徴を検討してみた。調査は昭和40年2月に実施した。なお、昭和38年岡崎市大ツ美町において実施した同様の調査結果と比較検討を行なった。

3. 主なる傾向の概略は、(1) 穀類の消費金額は、消費者米価等の値上げなどがあってもかかわらず消費金額は減少し、特に消費者家庭では支出比率は26%と低下している。

(2) 野菜類は1人1日当たりの消費金額は約2倍に増加しているが、支出比率は減少していない。

(3) 調味、嗜好品への支出割合は最減少傾向をみせている。これらの食品は昭和32～37年にかけて消費量は大幅に増加したと報告されていただけに、最近の消費内容の変化の一端がうかがえた。